

小田福男名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

小田福男先生は、1972年に神戸大学経営学部をご卒業後、同大学大学院経営学研究科を経て、1979年10月に小樽商科大学短期大学の講師として赴任し、1982年4月に商学部助教授、1989年10月に同教授となり、2013年3月に定年退職されました。その後2年間の特任教授を含め、35年6ヶ月の長きにわたり、本学の教育研究のみならず、1999年4月から2000年3月および2006年4月から2007年3月まで商学科長を務められ、学内運営にも貢献されました。

小田先生のご専門は経営学の分野の一つである企業形態論ですが、とりわけ、研究者としてスタートした時点から、一貫して、旧ソビエト連邦・ロシアの企業研究に力を注ぎ、この分野で大きな功績を成し遂げられました。先生の大学院時代の研究成果は、著書『ソビエト独立採算制理論の展開』（千倉書房、1982年）として出版されています。その後も「ソ連国有企業の株式会社への転換」（商学討究、1991年）、「ロシア国有自動車企業の株式会社化」（社会主義経営学会研究年報18号、1993年）、「企業形態」（『要説経営学』文眞堂、1994年所収）、「ロシア自動車企業の民営化と企業間関係」（スラブ・ユーラシアの変動研究報告輯3号、1995年）、「ロシアにおける民営化」（『現代の企業システム－経営と労働』税務経理協会、2000年所収）などの論文を發表されています。

先生のもう一つの学術研究の分野での貢献は、日ロ企業交流の研究です。ここでは、科学研究費助成金（文部科学省）「極東ロシアにおける資源開発に伴う北東アジア経済の変化に関する地域学的研究」（1999～2001年）、同「北方圏における地域企業の産業クラスター形成に関する研究」（2012～2015年）の代表として多くの研究者を集め広範な学際的研究を進められました。その成果は、

『サハリン石油・ガス開発プロジェクトと北海道経済の活性化(1)~(5)』(1998~2002年)など数々の報告書にまとめられています。この間、1994年3月から半年間ロシアの研究所で在外研究をされ、その後も4度学術調査のためにロシアを訪問されています。

教育の面では、小田先生は、学部では「企業形態論」,「経営学原理」,「研究指導」を、大学院商学研究科では「北方地域企業論」(現代商学専攻博士前期課程),「現代経営組織特論」(同後期課程),「北海道経済と地域戦略」(アントレプレナーシップ専攻)を担当されました。大学院で指導した学生は14名(自身の経営管理専攻時代の指導も含む)に及びます。学部の「研究指導(ゼミ)」での研究テーマは、当初は「経営学の基礎及び日本とロシアの企業システム」でしたが、その後「キャリア形成と経営学」に変わりました。キャリア形成の諸問題を個人の視点と組織の視点から複眼的に検討することを目的として、毎年多くの学生が集まりました。ゼミのテーマにキャリア形成の視点が入るようになったのは、おそらく、先生が、2009年に発足した「小樽商科大学地域研究会」の人材育成部門長に就任し、学生のキャリア形成の研究に関わるようになったことと無関係ではありません。先生は、この分野でも、「10年支援プログラムの到達点と課題」という論考を残されています(『大学におけるキャリア教育の実践』ナカニシヤ出版、2010年所収)。

スポーツ万能の先生は、退職後も、変わらずスポーツを愛し、企業形態の研究を続けられることと思います。これからも、益々のご活躍を期待するとともに、私どもへのご指導をお願いする次第であります。